

平成28年度 施策評価シート

基本目標	地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
政策	230 誰もが安全・快適に暮らし、移動できるまちをつくる
施策	232 歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する
施策の目標	歩行者が安心して歩ける歩道が確保され、交通事故の危険性が減るとともに、ユニバーサルデザインに基づいた施設整備やバリアフリー化が進むなど、誰もが、安全・快適に暮らし、移動できるまちになっています。

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
交通事故発生件数	件	900	982	980	883	641	643
道路バリアフリー整備延長	m	6,485	6,852	8,105	8,275	9,450	10,290

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
区内駅周辺部放置自転車台数	台	1,629	1,331	2,012	1,334	1,287

3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述

・道路バリアフリー整備事業は休止しているが、施策231における道路景観事業、道路維持事業など他の事業により、道路のバリアフリー化は着実に進行している。

・街路灯の新設改良はLED化を実施しているものの、街路灯の老朽化対策に合わせて省エネルギータイプへの変換が求められている。引き続き整備規模を拡大し、新設改良と維持管理を実施していく。

・便所改築事業により3箇所の改築を実施した。しかし、依然として老朽化が著しいトイレが多く、和式から洋式への変更要望も多いため、改築数を増やす必要がある。

・平成27年6月に墨田区交通バリアフリー道路特定事業計画を新たに策定した。今後は、「とうきょうスカイツリー・押上・本所吾妻橋駅周辺地区」及び「両国駅周辺地区」を道路バリアフリー化の優先整備地区とし、計画的に整備を進めていく。

4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性（選択肢に を付ける）

- (1) 優先的に資源投入を図る。
- (2) 現状維持とする。
- (3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
- (4) 資源投入の縮小を図る。

【上記の判断理由】

・全国的に通学路等の交通安全対策への関心が未だに高く、更なる交通安全対策が求められている。

・東京スカイツリー開業後の観光客の大幅な増加や、2020年の東京オリンピック開催が決まり、今後更なる来街者の増加が見込めることから、まち歩きの利便性や快適性、安全性を確保する必要があるため。

・東日本大震災から省エネに関する社会の関心が増加傾向にあるため。

【今後の具体的な方針】

・平成27年6月に策定した墨田区交通バリアフリー道路特定事業計画に基づき、バリアフリー化を進める。

・道路管理者、交通管理者、学校、PTAが協力体制を構築し、PDCAの交通安全対策を実施していく。

・街路灯は省エネとLCCに優れたLED照明や高輝度ランプの導入をさらに進めていく。

5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	踏切道拡幅整備事業	都市整備課	0	現状維持	
2	交通事故防止事業(交通安全協会補助金、交通安全普及啓発費)	土木管理課	7,917	現状維持	
3	放置自転車対策事業	土木管理課	99,100	拡充	放置自転車の状況に合わせて、撤去を強化する。
4	放置自動車・放置バイク処理事業	土木管理課	0	現状維持	
5	自転車駐車場整備事業	土木管理課	1,922	拡充	第3種の増設及び機械式地下自転車駐車場を整備する。
6	駐車場維持管理事業	土木管理課	10,208	現状維持	
7	自転車駐車場等維持管理事業	土木管理課	184,746	拡充	第1種については、経年劣化に伴う改修を行う。第2種については、駅周辺一括管理を検討する。
8	スクールゾーン育成事業	土木管理課	435	現状維持	
9	道路バリアフリー整備事業	道路公園課	0	拡充	高齢者差別解消法が施行されたことから、区が率先して障害者の社会的障害を取り除いていく必要がある。
10	あんしん歩行エリア交通安全対策事業	道路公園課	0	現状維持	
11	道路照明灯新設改良事業費	道路公園課	46,224	現状維持	
12	交通安全施設維持事業	道路公園課	182,950	拡充	様々な施策により死亡事故は減少傾向であるが、本区が多数管理する生活道路における事故は横ばい状態であることから対策を急ぐ必要がある。
13	公衆便所維持管理事業	道路公園課	66,163	現状維持	
14	便所改築事業	道路公園課	50,503	現状維持	
15	道路照明灯LED化事業	道路公園課	94,328	拡充	2020年水銀灯製造・輸入中止問題への対策と省エネによる財政コスト減を図るため拡充が必要である。
16	地点名標識英語表記改善事業	道路公園課	2,592	現状維持	

【評価結果】

拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。

現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。

改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。

縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。

休止、廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 1

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	踏切道拡幅整備事業		所管課・係	都市整備課都市整備担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6281
予算書名称	踏切道拡幅整備事業		執行実績報告書ページ	

1 事業の概要

これまでの交通安全基本計画による、開かずの踏切等における構造改良等の速攻対策を完了したが、京成押上線第1号踏切が新たに緊急対策の必要な踏切として抽出されたことから、鉄道事業者と協議調整を図り、安全・安心な踏切道の整備を進める。	事業開始年度	平成21年度
	終了予定年度	平成32年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
道路利用者					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
踏切内の歩道部カラー舗装や踏切道拡幅整備による歩行者と車両の通行帯の分離					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
踏切内を安全にスムーズに通行できる					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	速効対策が図られた踏切道		箇所	目標値	0	1	0
				実績値	0	1	0
成果指標 (目的に対する指標)	東武亀戸線第9号踏切道拡幅整備率		%	目標値	0	100	0
				実績値	0	100	0
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
過年度において6箇所の速攻対策(カラー舗装、踏切道拡幅整備等)を実施し、安全対策を図った。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路新設改良費	
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率	#DIV/0!	28年度 歳出 予算額	0
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
使用料等の収入の有無		使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
踏切事故は、長期的には減少傾向にあるが、改良すべき踏切道が残されている状況である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
踏切事故防止対策を図ることができる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
構造改良等の速攻対策が早期の交通安全対策となる。				
(4)現状と課題	踏切内の構造改良等であり、鉄道事業者との協議に時間を要する。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	踏切内の接触・転倒事故等を防ぐために必要な対策である。
今後の方向性 (見直しの視点)	新たに緊急対策踏切として抽出された京成押上線第1号踏切について、整備の内容、時期等について関係機関と調整を図る。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	交通事故防止事業(交通安全協会補助金、交通安全普及啓発費)		所管課・係	土木管理課交通安全担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6203
予算書名称	交通安全協会補助金、交通安全普及啓発費		執行実績報告書ページ	153

1 事業の概要

交通事故防止を目的に、昭和36年度からは道路標示の引き直し経費を、昭和39年度からは交通安全運動やキャンペーン等で配布する物資を、平成15年度からは交通安全の意識啓発経費を、それぞれ交通安全協会、町会、学校等に提供している。また、平成26年度からはスクエア・ストレイト方式による交通安全教室を、高校生以上を対象に開催し、交通事故防止に努めている。	事業開始年度	昭和36年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
【交通安全啓発】区民、歩行者、自転車利用者及び自動車利用者 【交通安全協会補助】交通安全協会	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
【交通安全啓発】交通安全運動やスクエア・ストレイト方式の交通安全教室、キャンペーン等での交通安全PR用物資の配布、障害者交通安全等意見交換会での情報交換 【交通安全協会補助】区内の交通安全協会に対し、交通安全意識の啓発や子ども・高齢者の交通事故防止対策、道路管理者としての区画線等道路標示の維持を目的とした補助金の交付	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
区民等の交通安全意識が向上し、区内の交通事故が減少するとともに交通マナーが改善された	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	交通安全運動やキャンペーンの実施	回	目標値	6	6	6
			実績値	6	7	8
成果指標 (目的に対する指標)	交通事故発生件数 (4月～翌年3月までの合計)	件	目標値			
			実績値	812	641	643

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

平成27年度は、交通安全運動やキャンペーン等に合わせて交通安全PR用物資を配布、本所及び向島の交通安全協会に補助金交付、スクエア・ストレイト方式の交通安全教室実施(9月)、障害者交通安全等意見交換会(12月)を行ったことで、交通安全運動や定期的なキャンペーンの実施により交通安全意識が向上し、交通事故件数の減に繋がっていると考えられる。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全推進費	
27年度歳出予算額	8,217	27年度歳出決算額	7,917	27年度執行率	96.3%	28年度歳出予算額	8,040
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	7,917			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		交通安全協会補助金					
27年度実績額	7,050	28年度予算額	7,050	対象	向島・本所交通安全協会		
開始年度	平成15年度	根拠法令	墨田区交通安全協会補助金交付要綱				
算定基準	交通安全協会が行う交通安全事業経費の補助			補助率	予算の範囲内		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>現在も一定の事故件数があるため、今後も事業を継続していくことが必要である。これまでも交通安全協会や町会等との連携がうまく図られてきており、効果も出ている。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>交通安全協会や町会等と連携を図り進めており、年間の死亡事故数も減少している。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>経年劣化による区画線の引直し等の対象箇所が、依然として区内に多数あるため、ソフト面の強化は必要である。そのため、交付金の減額は困難である。</p>				
(4)現状と課題	<p>関係機関との連携を密にして情報の共有化を図り、配布物資や、区画線引直し箇所等の事業実施内容について、十分に調整する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>今後も、交通安全協会や町会等と連携・協働しつつ、引き続き必要な支援を行い、継続的に交通安全意識の向上を図る必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>区画線等の標示の保全やスケアード・ストレイト方式による交通安全教室の実施により、交通安全意識の向上を図り、交通事故の減少に努めていく。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	放置自転車対策事業		所管課・係	土木管理課交通安全担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6203
予算書名称	放置自転車対策費		執行実績報告書ページ	153

1 事業の概要

駅周辺の放置自転車による生活環境の悪化を防止し、安全で快適なまちづくりを実施する。 「墨田区自転車の利用秩序及び自転車駐車場の整備に関する条例」に基づき、放置自転車対策を行う。	事業開始年度	昭和60年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
駅周辺等の公共の場所に放置されている自転車	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
業者委託による定期的・継続的な警告及び撤去	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
駅周辺等の公共の場所に自転車が放置されていない	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	放置自転車の撤去台数	台	目標値			
			実績値	15,611	13,366	10,218
成果指標 (目的に対する指標)	自転車の放置状況調査結果 (年1回、10月の東京都調査)	台	目標値			
			実績値	2,012	1,334	1,287
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
時間単位で利用できる第3種特定自転車駐車場の整備や放置自転車に関する追放キャンペーンの実施など、放置自転車対策を強化したことにより放置台数が若干減少したが、いまだ全体的に多いことから、更なる対策が必要である。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全推進費	
27年度 歳出予算額	102,654	27年度 歳出決算額	99,100	27年度 執行率	96.5%	28年度 歳出 予算額	108,036
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	自転車撤去手数料			収入額	9,234
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>放置自転車台数は年々減少しているが、いまだ多くの放置自転車があるため、事業の必要性は高い。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<p>放置自転車対策の一つとして、警告・撤去を行っており、一定の成果は出ている。23区すべてで同様の手段を採用している。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>放置自転車が多い錦糸町駅については、一括管理委託を検討する。 また、受益者負担の適正化を図るため、各種料金の改定について検討する。</p>				
(4)現状と課題	<p>区内で放置自転車が一番多い錦糸町駅周辺を重点的に、引き続き放置自転車台数を減らす対策(警告・撤去・PR等)が必要である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	<p>放置自転車台数の減少に向けて、放置自転車台数が一番多い錦糸町駅を中心に様々な対策を推進する必要がある。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>時間単位で利用できる第3種特定自転車駐車場の整備促進にあわせ、地域や民間事業者との協働の可能性について調査・研究していく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年第3回定例会、第4回定例会、決算特別委員会	
	要旨	<p>錦糸町駅周辺の放置自転車対策について(第3回定例会、決算特別委員会) 放置自転車の撤去費用について(決算特別委員会) 放置自転車の撤去体制について(第4回定例会)</p>	

事務事業名	放置自動車・放置バイク処理事業		所管課・係	土木管理課交通安全担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6203
予算書名称	放置自動車・放置バイク処理費		執行実績報告書ページ	153

1 事業の概要

道路上に放置された自動車やバイクを撤去処分することで、交通障害を解消し道路環境の改善を図る。所有者が判明しないものについては、交通の安全を確保するため、警察との協議を経て道路管理者である区が撤去する。	事業開始年度	昭和44年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
区内の道路に放置された自動車又はバイクで、所轄警察署と確認・調整した結果、撤去すべきと判断されたもの	に対して

【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
警告並びに一定期間経過後の業者委託による撤去及び処分	を実施したことで

【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
道路の通行空間が確保されている	状態にする。

目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	放置自動車・バイク警告数	回	目標値			
			実績値	82	25	80
成果指標 (目的に対する指標)	放置自動車・バイク撤去台数	台	目標値			
			実績値	23	0	0

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

放置されている自動車やバイクについて、区民や警察からの通報により警告しているが、撤去まで至ることは少ない。なお、警告札が剥がれていた場合再度警告するため、警告実績値は延べ回数となっている。
--

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全推進費	
27年度 歳出予算額	157	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率	0.0%	28年度 歳出 予算額	72
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	低い
警告数及び撤去数は減少傾向であるが、道路の機能維持のためには必要である。				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	低い
区民や警察からの警告により警告しているが、直接的な手段をとることは困難である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
所轄警察署と連携しながら、道路管理者として行う事業のため、統合はできない。				
(4)現状と課題	警察署との連携を含めた本業務の一連の手続きについて、見直す必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事案発生予測が困難であるが、道路本来の機能を保つため、道路管理者として対応できる体制を維持する必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	道路本来の機能を保つため、迅速に対応できる体制を維持していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	自転車駐車場整備事業		所管課・係	土木管理課交通安全担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6203
予算書名称	自転車利用総合方針による整備事業費		執行実績報告書ページ	153

1 事業の概要

平成25年度に策定した自転車利用総合方針に基づき、当面は時間単位で利用できる「第3種特定自転車駐車場」を整備する。	事業開始年度	平成26年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
駅周辺施設を、買い物や食事等の短時間利用目的で、自転車で移動する者	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
駅周辺に、駐車開始から2時間まで無料となる第3種特定自転車駐車場の整備	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
駅周辺施設の店舗を利用目的とする自転車利用者が当該自転車駐車場を利用し、公共の場所に自転車が放置されていない	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	第3種特定自転車駐車場の増設	か所	目標値		2	1
			実績値		2	1
成果指標 (目的に対する指標)	区内放置自転車台数(10月調査実施)	台	目標値			
			実績値	2,012	1,334	1,287

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

平成26年度から放置自転車が多い錦糸町駅及び両国駅の鉄道ガード下に第3種特定自転車駐車場を設置し、さらに平成27年度には錦糸町駅の北斎通りに設置したことにより、放置自転車台数は減少傾向にある。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全推進費	
27年度歳出予算額	2,251	27年度歳出決算額	1,922	27年度執行率	85.4%	28年度歳出予算額	1,776
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	自転車駐車場使用料(錦糸町駅北斎通り路上自転車駐車場分)			収入額	223
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	低い
<p>短時間利用ニーズは高く、放置自転車を減少させるための方策の一つとして必要である。他自治体においては、民間事業者による自転車駐車場の設置例がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<p>時間別の最大利用稼働率や放置自転車台数の減少状況から、極めて有効である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>民間事業者との協働の可能性を検討する。</p>				
(4)現状と課題	<p>歩道上に自転車駐車場を設置することから、区道では歩道の有効幅員を十分に確保することが難しく、幅員の広い国道・都道への設置を検討する。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	民間事業者による整備等の可能性検討を含め、更なる改善を図る。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>平成28年度は錦糸町駅南口に設置する。 平成29年度以降については、国道、都道への設置を検討する。 また、錦糸町南口に平成28年度から機械式地下自転車駐車場を整備する(平成31年4月供用開始予定)。</p>		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	駐車場維持管理事業		所管課・係	土木管理課交通安全担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6203
予算書名称	駐車場維持管理事業		執行実績報告書ページ	148

1 事業の概要

東墨田駐車場と隅田公園自動車駐車を管理運営する。	事業開始年度	平成9年度
	終了予定年度	なし (東墨田の契約期限は28年度末)

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		
東墨田地区の在住在勤者及び隅田公園利用者		に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		
東墨田駐車場及び隅田公園自動車駐車の適正な維持管理		を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		
東墨田地区の道路交通の円滑化と生活環境の向上及び隅田公園利用者の利便性の向上が図られている		状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	東墨田駐車場利用台数	台	目標値			
			実績値	74	77	78
成果指標 (目的に対する指標)	隅田公園自動車駐車場年間利用台数	台	目標値			
			実績値	6,552	10,407	14,208

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

東墨田駐車場は、収容台数115台に対して78台にとどまっている。 隅田公園自動車駐車場は、HP等での周知により、利用台数が年々増加している。平成27年度は前年度比約1.4倍増である。
--

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	土木管理費	目	土木総務費	
27年度 歳出予算額	10,401	27年度 歳出決算額	10,208	27年度 執行率	98.1%	28年度 歳出 予算額	10,346
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	公園駐車場・雑入(東墨田駐車場利用料分)			収入額	18,232
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
東墨田地区の環境改善のため、また隅田公園利用者の便益のため、必要である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
東墨田駐車場は一定の利用実績があり、隅田公園自動車駐車場の利用台数は年々増加している。				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
隅田公園自動車駐車場については、地元と協議した結果、安全確保等のための管理人を配置している。				
(4)現状と課題	東墨田駐車場は、東京都との土地無償貸付契約が平成28年度末で終了するため、引き続き設置する方向で東京都と協議する必要がある。設置後20年経過しているため、全体の白線の引直し等が必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	東墨田駐車場については、地区内の道路交通の円滑化と生活環境の向上のため、平成29年度以降も継続していく。
今後の方向性 (見直しの視点)	隅田公園自動車駐車場については、管理人を現地に配置するかどうかの議論があるが、地元町会からの要望と収入が上がっていることから、現状のままとする。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	自転車駐車場等維持管理事業		所管課・係	土木管理課交通安全担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6203
予算書名称	自転車駐車場等維持管理費		執行実績報告書ページ	153

1 事業の概要

「墨田区自転車の利用秩序及び自転車駐車場の整備に関する条例」に基づき、平成26年10月1日付けで供用を開始した第3種特定自転車駐車場を含め、通勤・通学等のために利用できる駅周辺の自転車駐車場34か所を、適正に管理運営する。	事業開始年度	平成25年度に放置自転車対策から分離
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
通勤・通学や駅周辺施設利用のため、駅周辺まで自転車を利用する者	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
自転車を駐車するための自転車駐車場の整備	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
駅周辺に自転車を放置することなく、駅や駅周辺施設を利用している	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	自転車駐車場の収容台数	台	目標値			
			実績値	11,265	10,674	10,753
成果指標 (目的に対する指標)	自転車駐車場登録者数 (第1種及び第2種の定期利用)	人	目標値			
			実績値	11,762	11,649	11,056

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

ニーズの多様化や自転車の特殊化・大型化に伴い、収容台数の見直しが必要となっている。 自転車駐車場の区画の見直し(錦糸町駅北口)に伴い、登録者数が減少することになった。
--

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全推進費	
27年度 歳出予算額	192,206	27年度 歳出決算額	184,746	27年度 執行率	96.1%	28年度 歳出 予算額	185,523
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 有	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	自転車駐車場使用料・自転車駐車場手数料・雑入(利用登録証再発行料)			収入額	105,958
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>自転車利用ニーズは、年々増大している一方、区営以外の自転車駐車場が少ないため、民設自転車駐車場の設置や付置義務自転車駐車場を推進していく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>利用者のニーズに合わせた維持管理等を行うことにより、各自転車駐車場ではほぼ満車状態となっている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>年々施設が増え、経年劣化が進んでいくため、経費が増加している。そのため、受益者負担の観点から、利用料金の見直しについて検討が必要である。</p>				
(4)現状と課題	<p>施設や設備の経年劣化に伴う改修費の増大が見込まれる。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	施設や設備の経年劣化に伴う改修とともに、新たなニーズを踏まえた収容台数の見直し等を行う必要がある。
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>駅周辺一括管理委託等、民間活力の導入を含め、更なるサービス向上を検討していく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成28年 予算特別委員会	
	要旨	料金体系について、一体的に見直しをするべきである。	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	スクールゾーン育成事業費		所管課・係	土木管理課交通安全担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6203
予算書名称	スクールゾーン育成事業費		執行実績報告書ページ	153

1 事業の概要

子どもの交通事故の防止を推進するために、スクールゾーン対策連絡会を開催し、関係機関との連携を図るとともに、補助金を交付しその活動を支援する。	事業開始年度	昭和56年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
小学校ごとに設置されるスクールゾーン地区対策連絡会	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
登下校時の交通事故防止活動への補助金の交付	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
スクールゾーンの安全性が確保され、児童が安全に登下校できる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	自主推進地区への補助金交付	地区	目標値			
			実績値	24	18	16
成果指標 (目的に対する指標)	区内小学生の交通事故死傷者数	人	目標値			
			実績値	11	20	19
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
交通事故により死傷する区内小学生は毎年2桁を超えており、各スクールゾーン連絡会から、安全対策の強化についての要望も毎年受けている。そのため、危険箇所の改善や交通安全意識の啓発等、活動支援を継続する。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全推進費	
27年度 歳出予算額	750	27年度 歳出決算額	435	27年度 執行率	58.0%	28年度 歳出 予算額	450
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		スクールゾーンモデル地区対策連絡会及び自主推進地区対策連絡会補助金					
27年度 実績額	435	28年度 予算額	450	対象	スクールゾーン対策連絡会		
開始 年度	昭和56年度	根拠法令	墨田区スクールゾーンモデル地区対策連絡会及び自主推進地区対策連絡会補助金交付要綱				
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	低い	前年度評価	低い
補助金を交付する学校数が減少傾向にあり、平成27年度は、辞退が9校で、補助金を戻した学校が3校あった。				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	ない
交付する学校数が減少傾向にある。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
登下校時の交通事故防止活動への補助金事業のため、他事業との統合は難しい。				
(4)現状と課題	スクールゾーンの安全確保のため、学校関係者、交通管理者との意見交換や連携強化により、危険箇所を把握する必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	スクールゾーンへの活動支援は必要である。
今後の方向性 (見直しの視点)	各地区ごとの特性を踏まえて関係機関と連携し、必要な対策を講じていく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	道路バリアフリー整備事業		所管課・係	道路公園課計画調整担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6291
予算書名称	道路バリアフリー整備事業		執行実績報告書ページ	

1 事業の概要

<p>「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」が平成12年11月に施行されたことに伴い、平成13年度から本事業に着手し、錦糸町・両国地区、曳舟川通りの道路バリアフリー整備を進めてきた。 平成18年にハートビル法と交通バリアフリー法を拡充・統合したバリアフリー新法が制定され、最近では、平成24年に東京スカイツリー®開業、平成25年に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催決定など、今後一層の来街者増加へ対応すべく、誰もが安全で安心して移動できるやさしいまちづくりの実現として道路をバリアフリー化する事業である。</p>	事業開始年度	平成13年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか								
高齢者、障害者等を含む全ての人					に対して			
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
歩道の有効幅員の確保、段差の解消など「東京都福祉のまちづくり条例整備マニュアル」に基づく道路バリアフリー整備					を実施したことで			
【目的】この事業によって対象をどのような状態にするのか								
安全で安心な歩行空間を確保した					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	道路バリアフリー整備延長			m	目標値	6,485	6,485	6,485
					実績値	8,275	9,450	10,290
成果指標 (目的に対する指標)	道路・交通体系の整備に関する満足度 (墨田区住民意識調査より)			%	目標値		70.0	
					実績値		67.8	
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
<p>計画路線である曳舟川通りについては、他企業工事との競合で一時事業を中止しているが、墨田区交通バリアフリー基本構想(平成16年6月策定)の基本理念である「だれもが移動しやすく、安全で安心な、ふれあいのあるバリアフリーまちづくり」に基づき、新タワー周辺主要道路景観整備事業や歩道新設事業など、他の事業においてもバリアフリー化を行うことで事業を進めている。 また、平成26年度に策定した「墨田区交通バリアフリー道路特定事業計画」に基づき今後は、「とうきょうスカイツリー・押上・本所吾妻橋駅周辺地区」及び「両国駅周辺地区」についても道路バリアフリー整備を進める予定である。</p>								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円)*歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路新設改良費	
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率		28年度 歳出 予算額	0
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>事業へのニーズは横ばいである。区が事業を実施する理由はある。事業を休止・中止した場合の影響は中程度である。 26年度に新たな「墨田区交通バリアフリー道路特定事業計画」を策定しており、交通バリアの解消に対するニーズは高く、区民や来街者にとって安心して利用しやすい道路の整備は必要不可欠である。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標の実績値は横ばいである。施策目標を達成するため有効性は概ね適切である。 「国際観光都市すみだ」や「住み続けたい街」を実現するためにも、高齢者や障害者といった交通弱者が安心して利用できる道路環境を整備することは、墨田区のイメージアップに寄与するとともに、災害時の安全対策上も有効である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>墨田区交通バリアフリー基本構想及び墨田区交通バリアフリー道路特定事業計画に基づいているため、関連・類似事業との統合は不可能である。事業に係る経費は横ばいである。受益者負担には該当しない。 整備すべき道路施設が膨大であり財政的な負担が大きいため、特定財源の確保のため無電柱化事業等と複合的に実施することや占用企業者との共同事業により区の工事負担を軽減するなどの検討を行い、費用対効果を高めて行く必要がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>平成26年度に策定した「墨田区交通バリアフリー道路特定事業計画」に基づき事業を進めていく必要があるが、安定した財源措置が必要となる。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	<p>事業の必要性を重視。今後進んでいく高齢化社会や区の観光施策など、安心安全なまちづくりの実現は、継続して実施していく必要がある。 (平成26年度に墨田区交通バリアフリー道路特定事業計画を策定)</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>現在、墨田区のバリアフリーに関する基本的な考え方は、平成16年度に策定した「墨田区交通バリアフリー基本構想」に基づいているが、これは旧法時代に策定したものであるため、バリアフリー新法に対応した基本構想に更新する必要がある。特に、PDCAサイクルの構築は、バリアフリーを進めるうえで重要と考えられる。 なお、平成26年度に策定した墨田区交通バリアフリー道路特定事業計画については、墨田区南部地区における観光施策の早急な対応が必要と考えられたため、現基本構想に基づき策定したものである。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	あんしん歩行エリア交通安全対策事業		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	あんしん歩行エリア交通安全対策事業費		執行実績報告書ページ	

1 事業の概要

区内で最も鉄道乗降客の多い錦糸町地区において、交通事故の防止と道路環境の改善、安全な歩行空間の確保が必要であることから、あんしん歩行エリア内に、歩道・準歩道設置、交差点改良等で交通安全対策を行う。	事業開始年度	平成28年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
沿道住民及び歩行者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
歩道・準歩道の設置、交差点改良等	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
交通事故の防止や道路環境の改善など、安全な歩行空間が確保された	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	対策実施箇所	箇所	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	1
成果指標 (目的に対する指標)	「交通事故発生件数」(墨田区基本計画)	件	目標値	900	900	900
			実績値	833	668	630
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
スクールゾーン連絡会などの地元住民との意見交換会、PTA・教育委員会・交通管理者との合同点検及び対策の実施などの交通安全対策を行った結果、交通事故発生件数が減少している。 (平成27年度は別事業で道路照明灯設置による照度改善を行った。)						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	道路新設改良費
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率		28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	ない
<p>ニーズは増大。中止及び休止の影響は大きい。多くの来街者で賑っており、ゾーン30指定区域でもある錦糸町駅周辺ではニーズが高い。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	ない
<p>指標値は計画どおり推移している。 本事業は単なる歩道の新設ではなく、地元住民や交通管理者の意見を聞きながら交通安全対策を策定するため、有効性は概ね適切である。 今後は地域に適した交通安全対策(歩道・準歩道・自転車レーンの設置、交差点改良等)を複合的に実施検討していく。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	
<p>関連事業はない。事業経費は横ばい。受益者負担は非該当。 前事業の歩道の新設拡幅事業を見直し、路側帯のカラー化など出来るだけ安価で即効性のある交通安全対策も含めた新たな事業として、地域ニーズ等に反映した効率的な事業推進を行う事ができる。</p>				
(4)現状と課題	多様化する自転車交通への対策も必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の必要性を重視。 安心・安全なまちづくりから子育て世代を支援していくことが重要と考えられる。
今後の方向性 (見直しの視点)	歩道の整備と自転車レーンの整備等を併進させることで、自転車の走行が無い安心して通行できる歩道空間を確保する必要がある。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

事務事業名	道路照明灯新設改良事業		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	交通安全施設維持管理費		執行実績報告書ページ	154

1 事業の概要

区道に設置する街路灯の小型の20W蛍光灯(型)から大型の400W水銀灯(型)の街路灯約10,000本について、計画的に交換する。なお、平成14年度以降については、高輝度ランプを採用し、照度アップを図っている。 また、平成26年度から、維持管理費の軽減を図るため、幅員6m未満の道路についてLED街路灯を導入している。	事業開始年度	昭和28年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか						
歩行者、自転車、通行車両					に対して	
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
定期的な照明灯の損傷調査や照度調査結果に基づき、緊急性のある箇所を優先的に新設及び改修					を実施したことで	
【目的】この事業によって対象をどのような状態にするのか						
夜間における良好な照度を確保すると同時に、省エネタイプの照明灯を採用し、環境に配慮することで、道路空間を安全・円滑に通行できる					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	照明灯新設改良本数	本	目標値	400	400	400
			実績値	112	131	112
成果指標 (目的に対する指標)	「交通事故発生件数」 (墨田区基本計画より)	件	目標値	900	900	900
			実績値	883	641	643
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
損傷の著しい道路照明灯を優先して改修しているが、区内約10,000本を目標値の400本で改良すると少なくとも25年かかる。定期的な点検と塗装等の補修も合わせて行い、延命化を図ることで安全を確保していく必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全施設費	
27年度歳出予算額	47,700	27年度歳出決算額	46,224	27年度執行率	96.9%	28年度歳出予算額	210,596
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>道路照明灯の新設及び改修に対する区民の要望は強い。中止及び休止の影響は大きい。損傷度が高い照明灯が多数あるため、継続して改修工事を行う必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
<p>指標実数値は横ばい。 損傷度が高い照明灯の安全確保、道路の照度改善のためには、照明灯の改修や新設が最適な方法であることから、有効性は概ね適切である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>関連(類似)事業は道路照明灯LED化事業があるが、6m未満の狭い路線を対象としているため、連携する必要があるが統合は否。受益者負担は非該当。 労務費や物価価格の上昇により、照明灯1本当たりの工事費は増加傾向にあり、活動指標の目標値は未達成である。関連事業との連携を図り、さらなる効率化を検討する必要がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>年間400本の改修目標を達成できていないため、損傷度が高いものの改修と、塗装などの維持補修工事を併用することにより、照明灯の延命化を図っていく。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>事業の必要性を重視。 照明灯の新設や照度改善に対する区民の要望は強く、継続して照明灯の新設、改修を進める必要がある。</p>
今後の方向性(見直しの視点)	<p>ライフサイクルコストの縮減や環境への配慮の視点から、LED照明設置の拡大を図る必要があるが、大型のLED道路照明灯については、未だ本体価格が高価であり、ライフサイクルコストの面で通常の高輝度ランプに劣るため、引き続き社会情勢を見据えながら導入検討を行っていく。</p>		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年第3回定例会	
	要旨	区内の街路灯対策について	

事務事業名	交通安全施設維持事業		所管課・係	道路公園課維持担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6295
予算書名称	交通安全施設維持事業		執行実績報告書ページ	154

1 事業の概要

安全、安心、快適な道路空間を維持するため、道路照明灯の建替えや灯具交換、標識の建替え、ガードレールの補修、交差点の改良等を適切に実施している。	事業開始年度	昭和28年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
通行者				に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
道路照明灯の建替えや灯具交換、標識の建替え及びガードレールの補修等				を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
安全、安心、快適に移動できる道路空間を確保する				状態にする。			
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	交通安全施設改修件数		件	目標値	90	90	90
				実績値	92	85	99
成果指標 (目的に対する指標)	「交通事故発生件数」		件	目標値	900	900	900
				実績値	883	641	643
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
<p>経年により老朽化した交通安全施設が年々増加しており、事業量は増加傾向にあるが、良好な道路空間の適切な維持管理により、交通事故件数は減少している。</p> <p>しかし、急務の課題として通学路の交通安全対策等があるため、計画・効率的な事業進捗に努め、更なる指標の改善を行う必要がある。</p>							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全施設	
27年度歳出予算額	184,331	27年度歳出決算額	182,950	27年度執行率	99.3%	28年度歳出予算額	213,510
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	有	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
ニーズは増大。中止及び休止の影響は大きい。通学路の交通安全対策が求められている。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
指標は横ばい。街路灯、ガードレールとも区民からの増設要望が多く、交通安全の向上に効果的であるため有効性は概ね適切である。				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
類似事業は無い。事業経費は増加。受益者負担は非該当。事業量は増加傾向にあるため、更なる効率化が求められる。				
(4)現状と課題	老朽化した交通安全施設が増加しており、事業の更なる効率化が求められる。また、全国で通学中の事故が相次いで発生していることから、通学路の交通安全対策が強く求められている。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	事業の必要性を重視。今後更なる事業量の増加に備え、効率化を検討していかなければならない。
今後の方向性 (見直しの視点)	各交通安全施設の改修計画については、道路ストック総点検の結果による見直しを行い、緊急かつ効果的な交通安全施設の修繕や再配置を考える必要がある。 また、区道の大部分は生活道路であり、生活道路に関する死傷事故件数(東京都内)の減少率が未だ低いことから、教育委員会、PTA、交通管理者、地元町会等と連携した対策が今後も継続的に必要と考えられる。		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	公衆便所維持管理事業			道路公園課維持担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6597
予算書名称	公衆便所維持管理事業費		執行実績報告書ページ	158

1 事業の概要

恒常的に便所清掃及び施設の維持補修等を行い、利用者が快適に利用できるよう努めている。 また、平成25年3月28日条例改正により「公衆便所」から「公衆トイレ」に名称を変更している。	事業開始年度	昭和28年
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
公衆トイレ利用者					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
恒常的に便所清掃及び施設の維持補修等を行い、常に良好なトイレ環境を保持し、安心・清潔なトイレの提供					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
公衆衛生及び快適性が保たれた					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	公衆便所清掃面積		㎡	目標値	724	734	747
				実績値	724	734	747
成果指標 (目的に対する指標)	住みごちに満足している区民の割合 (墨田区住民意識調査)		%	目標値		90.0	
				実績値		88.8	
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
トイレトーパーホルダーの設置が完了し、利用者の快適性の向上に繋がった。また、トイレの利用頻度や汚れが目立つトイレから清掃回数を増やしている。しかし全体的には老朽化したトイレの箇所数がまだ多いことから一部リフォームなどで快適性を高め利用者へのサービス向上に努める。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公衆便所費	
27年度 歳出予算額	68,305	27年度 歳出決算額	66,163	27年度 執行率	96.9%	28年度 歳出 予算額	67,916
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>公衆トイレの需要は多く、利用頻度が高いところは清掃回数を増やすなどの対応をしている。今後もニーズは高いと思われる。公衆衛生的・生活環境的の維持・向上を目的とした事業であるため、中止することはできない。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>実績値は、トイレ内が清潔に保たれているため、高い数値が得られていると考えられる。利用者が快適に利用できるように、日常の清掃を定期的に行う必要があるため有効性は高い。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>類似事業は無い。経費の推移も横ばいである。</p>				
(4)現状と課題	<p>老朽化やバリアフリー未対応など、清掃のみでは利用者が快適とは言えないトイレが多数あるため、全面改修や部分的なリニューアルが必要である。トイレトペーパーホルダーはより使い勝手のよいものに交換を進めていく。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業の必要性を重視。既設公衆トイレについて、日常的な清掃や維持補修を行いながら、利用者の快適性が向上できるよう維持管理を行う。
今後の方向性 (見直しの視点)	利用者にさらに快適にトイレを利用してもらうため、トイレ内の喫煙についてもマナー向上を図れるよう検討していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

事務事業名	便所改築事業		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	公園便所整備事業費		執行実績報告書ページ	157

1 事業の概要

「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」が平成12年5月に公布されたことを契機に、公園等のトイレを、誰もが快適に利用できる環境としていくため、平成13年度から施設の老朽化に合わせて、だれでもトイレへと順次改築している事業である。	事業開始年度	平成13年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
トイレ利用者(区民、区を訪れる観光客、等)	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
健全度調査結果に応じて「東京都福祉のまちづくり条例」及び「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の推進に関する法律(バリアフリー法)」に基づく「だれでもトイレ」の整備(避難場所及び隣接地、小中学校に隣接するトイレには、震災対応型だれでもトイレとして整備する。)	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
高齢者や車イスを利用している人を含め、誰もが快適に公園等のトイレが利用できる	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	だれでもトイレ設置数 (H28公園・公衆トイレ139箇所のうち) H27,26,25はそれぞれ139,138,138箇所のうち	箇所	目標値	41	44	48
			実績値	41	44	47
成果指標 (目的に対する指標)	公園・遊び場の環境を 「良い」または「やや良い」と答えた割合 (墨田区住民意識調査 P.14生活環境評価)	%	目標値		50.0	
			実績値		37.1	

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

公園等のトイレを、誰もが快適に利用できる環境としていくため、施設の老朽化に合わせて順次改築している。平成28年4月1日現在、全公園・公衆トイレ139箇所に対してだれでもトイレは47箇所(整備割合約33%)整備完了している。成果指標は平成24年度の35.6%と比較して上昇しており、事業の効果を確認できる。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	公園費	目	公園管理費	
27年度 歳出予算額	51,100	27年度 歳出決算額	50,503	27年度 執行率	98.8%	28年度 歳出 予算額	44,000
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>老朽化したトイレが全体の半数以上を占めており、地元要望も多く事業に対するニーズは増大していることから必要な事業である。中止及び休止の影響は大きい。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>指標実数値はほぼ計画どおり推移している。 トイレに限らず、そこに至る園路のバリアフリー化も同時に行っていることから有効性は高いと思われる。トイレを設置する公園等が老朽化している場合、利用者の満足度が得られにくいいため有効性は低いと言える。</p>				
	評価結果	低い	前年度評価	低い
<p>事業経費は横ばい。受益者負担は非該当。 整備する場所によって園路や公園出入口のバリアフリー化、公園の改修と一体的に実施することが可能であるため効率的ではあるが、公園等再整備と一体的に行う事がより効率的である。</p>				
(4)現状と課題	<p>児童遊園のトイレは国庫補助金の対象外であるため、対象とすべく条件整理を行う必要がある。また、整備費を圧縮することが見込めるため、仕様を統一化することを検討する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>事業の必要性を重視。 観光客の利用が見込まれるもの、地域ごとのバランス、トイレの適正配置なども考慮し優先順位を付け、効果的に改修を行う必要があるが、依然として老朽化が著しいトイレが半数を占めている。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助制度(社会資本整備総合交付金)、都補助制度(地域福祉推進区市町村包括補助事業)等を最大限活用し、区の財政負担を軽減しつつ、更新のスピードアップを図っていく。 ・公園の全面改修等、他事業と合わせた効率的な整備も実施する。 		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成28年1月 観光対策等調査特別委員会	
	要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆トイレの整備について ・区内観光の基盤整備について 	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	道路照明灯LED化事業		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	交通安全施設維持管理費		執行実績報告書ページ	154

1 事業の概要

東日本大震災を契機に、区が管理する街路灯の電気料金が年々増加している。また、LED照明灯の技術革新、低価格化も進んでいることから、平成26年～30年度の5か年で区が管理する蛍光灯(型)3,473本(H26年当初)をLED化する計画として事業を開始した。	事業開始年度	平成26年度
	終了予定年度	平成30年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区民、観光客及び交通利用者					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
道路幅員6m未満の照明灯を省エネ効果が高く、既存の蛍光灯より明るいLED灯へ改修					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
消費電力及び二酸化炭素排出量の抑制(環境対策)、電気代の抑制(財政支出の軽減)、道路の照度改善(防犯対策・安全対策)により、道路環境を安全で安心な					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	LED道路照明灯設置		本	目標値		435	759
				実績値		427	370
成果指標 (目的に対する指標)	「交通事故発生件数」 (墨田区基本計画より)		%	目標値	900	900	900
				実績値	833	641	643
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
当初は年間約700本を改修して5年間で約3,500本の蛍光灯を改修する予定であったが、今の実績では年間400本程度に留まっている。今後は安定した財源措置の確保あるいは計画期間を見直す必要がある。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全施設費	
27年度 歳出予算額	100,000	27年度 歳出決算額	94,328	27年度 執行率	94.3%	28年度 歳出 予算額	210,596
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	有	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
休止及び中止の影響は大きい。 LED灯はCO2排出量が低いことで環境対策になり、また省エネ効果が高いことで電気代の抑制による区支出抑制の効果が大きいため、事業の必要性は高い。 今後は大型街路灯のLED化の検討が必要となる。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
指標実数値は計画どおり。 事業実施にあたりLCCの比較・検証をしており、また他の自治体でもLED導入が進んでいるため有効性は概ね適切である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
国庫補助のため、類似事業との統合は否。事業経費は横ばい。受益者負担は非該当。 LED灯への取り換えに特化して短期間で集中的に整備することで効率化に寄与している。また整備費に国庫補助金を使用しているため費用面においても効率的な事業と言える。				
(4)現状と課題	今後は大・中型の街路灯(水銀灯100~400W相当)もLED化を検討し、更なる省エネ化、財政支出の抑制(電気代)に取り組む必要がある。 また、2020年までには水銀灯の国内製造や輸入が禁止されるため、既存の水銀ランプを高輝度ランプ(セラミックメタルハライドランプなど)又はLEDへの交換を急がなければならない。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	事業の必要性を重視。 LCCを検証し、最も有効に街路灯を改修し、かつ、環境対策や財政支出の抑制にもつながる事業であるため、今後も継続が必要と考えられる。
今後の方向性(見直しの視点)	・大・中型街路灯(水銀灯100~400W)でのLED化検討 ・LED道路照明灯の改修計画の策定(LEDの寿命が15年) ・2020年水銀灯製造・輸入禁止への対応(水銀灯を高輝度ランプ又はLEDへ交換)		
平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年第3回定例会	
	要旨	街灯を明るくしてほしいとの住民からの要望があった箇所については、まず先にLED化すべき。	

作成年月日：平成28年6月22日

事務事業名	地点名標識英語表記改善事業		所管課・係	道路公園課工事担当
施策	232	歩行者や車いすなどを利用している人が、安全で快適に移動できる空間を確保する	連絡先	03-5608-6293
予算書名称	地点名標識英語表記改善事業費		執行実績報告書ページ	154

1 事業の概要

観光振興を支える基盤整備として、現在ローマ字表記となっている地点名標識を区内全域で英語表記に改善する。 なお、平成27年度は東京スカイツリー®周辺で、国及び東京都と連携して整備を行った。	事業開始年度	平成27年度
	終了予定年度	平成31年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか								
墨田区を訪れた外国人観光客					に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)								
現在地を現地で確認できる地点名標識を英語表記への改善					を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか								
現在地が把握でき、観光回遊が楽しみやすくなる					状態にする。			
目的を達成するための指標								
種類	指標名(指標の説明)			単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	英語表記化した地点名標識の数			基	目標値			23
					実績値			23
成果指標 (目的に対する指標)	外国人観光客の墨田区に対する来訪満足度			%	目標値			
					実績値			80.3
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)								
国庫補助金を活用し、区財政負担を軽減していることもあり、事業実績は計画どおり上がっている。 整備箇所については、主要観光地(東京スカイツリー®)及び観光案内所(両国、吾妻橋)周辺から優先して整備を進めているため、観光案内所機能の強化につながっている。								

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	土木費	項	道路橋梁費	目	交通安全施設	
27年度歳出予算額	2,800	27年度歳出決算額	2,592	27年度執行率	92.6%	28年度歳出予算額	6,750
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	有	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>来区する外国人観光客増によりニーズは増大している。 中止及び休止の場合、外国人観光客からの来訪満足度への影響は大きい。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>観光案内所だけでは外国人観光客のまち歩きを補助することは難しいと考えられる。そのため、本事業においては、英語表記の地図や案内パンフレットを見ながらまち歩き観光を楽しむ外国人観光客が、容易に現在地を確認できるようになるため、無人で観光案内機能の向上に図ることができる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
<p>類似事業は「交通安全施設維持事業」であるが、こちらは老朽化施設の改修で、本事業においては、地点名標識を改修させるだけでなくグレードアップをすることにより国庫補助金を活用でき区財政負担の軽減、老朽化した施設改修のスピードアップに繋がっている。</p>				
(4)現状と課題	<p>本事業については、他の道路管理者である国及び東京都と連携し、区内全域の地点名標識を英語表記に改善する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	事業のニーズ・効果もあり、計画どおり今後も事業を進めていく必要があるため。
今後の方向性(見直しの視点)	法定外の看板等についても英語など多言語化標記を行い、観光案内や交通安全対策を図る必要がある。		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		